

道徳科学習指導案

京都教育大学附属小学校

指導者 ○○ ○○

- 1 対 象 第1学年○組 ○名
- 2 日 時 平成○年○月○日(水) 第○校時
- 3 場 所 1年○組教室
- 4 指導内容 小学校指導要領(特別の教科 道徳)では、項目B-(3) [礼儀] の第1学年及び第2学年の内容において「気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること」と示されている。本単元ではそれを踏まえ、状況をわきまえて心のこもった適切な礼儀正しい行為について指導する。
- 5 単元名・資料名 気持ちのよいふるまいを「赤いくれよん」
- 6 単元の目標 相手の立場にたち、心のこもった接し方を心がけることができる
- 7 単元について

(1)教材観

本単元では、「気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること」を扱う。他の人とのかかわりにおける習慣の形成に関するものであり、状況をわきまえて心のこもった適切な礼儀正しい行為ができる児童を育てることをねらいとしている。

相手の立場にたち、心のこもった接し方を心がけることは、社会生活を営む上で大切なものである。礼儀とは、自分が礼儀をわきまえているということを相手に伝えることにより、自分を理解してもらうための手段ともいえる。しかし、外面的な形として表現されていても、本質的には、内面的な部分から表現されなければ意味がない。つまり、礼儀とは、相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体となって現れることにこそ、その価値が認められる。

小学校生活、特に低学年においてトラブルが起きた時、担任が仲裁に入り、「ごめんね」「いいよ」といった形式的な場面を見たことはないだろうか。前述した「礼儀」についてあてはめて言えば、このやりとりには内面的な「礼儀」はないように感じる。なぜ謝ることが必要なのか、なぜ言葉で伝えることが必要なのか、また、内面的な礼儀とはどういうことかについて、考えることは大切である。

また、気持ちのよい挨拶やふるまいは、人と人とを結び、お互いの心を明るくする。特に、感謝の気持ちを伝えたり表現したりすることで、自分だけではなく相手にとっても気持ちのよい体験として心に残る。新たな友達の輪を作るためにも、明るい気持ちで行動するよさを知るきっかけを作ることは、今後の日常生活にもつながっていくと考える。

本資料は、「きつね」「こぶた」「たぬき」の3ひきの動物が出てくる。仲良しの3ひきの動物が、雨の日にお絵かきをして遊ぶことになった。その際に、きつねが赤いクレヨンがないことに気づき、こぶたに「貸して!」と言って絵を描き始めた。その際、こぶたは、何も言わずに書き始めたきつねに対してもやもやした気持ちを持つ。たぬきが、青いクレヨンをこぶたに借りた時には、たぬきは元気な声で「ありがとう。」と言って借りる。その様子を見て、きつねは赤いクレヨンをじっと見つめていたというお話である。

きつねの心情を追って読んでいくことで、礼儀の大切さや意味が感じられるような資料となっている。

(2) 児童観

本学級の児童は明るく活動的である。自分の思いを伝えたいという児童が多だけでなく、学習にも積極的で、新たな知識を知りたいと感じている。一方で、挙手した時に指名されなかったことで悔しがったり、友達の意見には無関心だったり、「友達と一緒に学びあう」という意識は少ない。聴く大切さの指導だけでなく、少人数での話し合いや活動、発表した人への反応の学習を通して、「自分も授業に関わっている」という安心感が持てるように工夫している。

登校時や下校時には、元気いっばいのあいさつを行うことができる児童がほとんどである。また、教師にだけでなく、隣の席の児童や友達にもあいさつをし、友達の輪を広げようとする子もたくさんいる。あいさつを返してくれる喜びや自分から勇気を出して言えた喜びを感じているように思う。一方で、「ごめんね」「ありがとう」の言葉はなかなか言えず、助けてくれた友達への対応に戸惑う場面も見られる。

学校生活にも慣れ、学級内の友達関係の広がりも見え始めてきた。4月当初グループを作り固まって遊んでいた児童も、色々な友達と遊ぼうとする姿が多く見られるようになった。「一緒に遊ぼう」という声かけも増えてきた。また、困っている友達を見ていたら放っておかず、代わりに教師に伝えにきたり、お手伝いをしたりする優しい場面も多く見られる。しかし、気の合う友達だけでなく、反発しあう友達もできたことにより、小さなトラブルが起きている。例えば、違う遊びをしたい友達を無理やり誘ったり、一輪車を次の人に譲らず自分だけが使ったり、「自分が」「自分と仲のいい子だけが」楽しければいいという思いが垣間見られる。

この時期に、相手の気持ちを押し量り、行動に移すことは難しい。しかし、少しずつでも相手の思いに心を寄せ、行動できる場面が増えれば、学級全体の雰囲気大きな影響を与えていくと考える。この資料を通して、感謝の気持ちを伝えることで、友達とより良い関係を結ぶことに気付き、誰に対しても気持ちのよいふるまいができるような姿勢を育みたい。

(3) 指導観

教材観に示した教材の価値と児童観に示した児童の実態を踏まえて、単元の目標を達成するため以下のような指導の工夫を行う。

- ①登場人物の気持ちに寄り添いながら学習を進めるため、きつねさん、たぬきさん、こぶたさんのフラッシュカードに吹き出しをつけて板書し、児童の理解度に応じて動作を交えてお話の流れを確認する。
- ②場面に応じて登場人物の気持ちを問い、それを交流することで深め合いたい。そのために中心となる発問を精選したい。また、その発問はフラッシュカードで提示する。特に中心発問は色を変えるなどして目立つように工夫する。
- ③役割演技を導入し、温かい言葉かけでお互いが温かい気持ちになり、雰囲気が和らぐことを実感できるように支援する。
- ④終末でのまとめはお手紙形式のワークシートを使用し、相手意識を大切にして温かい言葉で肯定的に描くように支援する。そのお手紙も発表し、学習の成果を確認したい。

8 本時について

(1) 本時のねらい

きつねの心情の変化を考えることを通して、気持ちのよいふるまいをしようとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

○主な指示・発問 ◆支援 ■評価

	学習活動と内容 予想される児童の反応	指導上の留意点・支援・評価	準備物・資料等
導入 5分	1. 歌を歌う。 今日のお話の登場人物を知る。	・歌を歌いながら、今日のお話の登場人物を伝える。 物語に興味を持てるようにする	・CD
展開 30分	2. 話の内容をつかむ。 ○お話を聞いて考えましょう。	・資料を範読する。 ・動作化しながら、話の流れを確認する。	・フラッシュカード
	3. きつねの気持ちを考える。 ○きつねさんの気持ちについて話し合しましょう。 ・これで描けるぞ。 ・こぶたさん、ありがとう。 ・早く続きを描きたいな。 ・なんで自分のクレヨンがないんだろう。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> きつねさんは、こぶたさんからクレヨンをかきたとき、どんな気持ちだったのだろう。 </div> ・こぶたに感謝しているという意見が出てきたときには、言葉に出してはいない点に着目し、たぬきとの違いにつなげる。	
	4. たぬきとこぶたのやりとりを見たきつねの気持ちを考える。 ○この場面でのきつねさんの気持ちについて話し合しましょう。 ・ぼくもありがとうを言えばよかったなあ。 ・勝手にとってごめんね。 ・ちゃんと謝ろう。 ・今からでも許してくれるかな。 ・こぶたさん怒っているかな。 ・たぬきさん、すてきだな。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 赤いクレヨンを見つめながら、きつねさんはどんなことを考えていたのだろう。 </div> ・たぬきとこぶたのやりとりを思い出し、特にたぬきが「ありがとう」と明るくお礼を言ったところを強調し、お礼の大切さに迫る。 ・後悔や反省の考えが出た時、理由を問い、クレヨンを借りた時との心情の変化を考える	
	5. お話の続きを考える。 ○お話の続きを考えてみましょう。 ・「勝手にとってごめんね。」「いいよ。」 ・「クレヨンありがとう。」「どういたしまして。」	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> この後、きつねさんとこぶたさんはどんなお話をしたんだろう。 </div> ・「ごめんね」「いいよ」という言葉が出てきたとき、なぜこぶたはもやもやしていたのに許したのかを問い、謝罪を言葉にする大切さについて触れる。 ・役割演技を行い、お互いが温かい気持ちになって会話していることに気付かせる。	
終末 10分	6. きつねさんに対する自分の思いを書く。 ○きつねさんにお手紙を出しましょう。	■きつねの心情の変化を考えることを通して、気持ちのよいふるまいをしようとする心情を育てることができたか。 ◆思いつかない児童に対しては、今回の資料を読んだ感想を書くよう伝える。	・ワークシート

9 資料分析

場面	プロローグ	部屋①	部屋②	部屋③
きつね	なかよしのもたちとおえかきをする。	こぶたに赤いクレヨンを借りる。	たぬきがこぶたにクレヨンを借りているのを見る。	こぶたに借りたクレヨンを見つめる。
道徳的問題と道徳的变化	道徳的問題の所在		道徳的变化	

10 評価

きつねの心情の変化を考えることを通して、気持ちのよいふるまいをしようとする心情を育てることができたか。(発言・ワークシート)

11 板書計画

<p>あかい くれよん</p>  <p>「かして！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これでかけるぞ ・よし、はやくかこう。 ・こぶたさん、ありがとう！ <p>「あれ？」</p>	 <p>・ごめんなさい。</p> <p>・いまからもいいかな。</p> <p>・こぶたさん怒っているかな。</p>	 <p>「かしてもらっていい？」</p> <p>「ありがとう！」</p> <p>「いいよ。」</p>
---	---	---

あかい くれよん

あるところに、 きつねさん、 こぶたさん、 たぬきさんの なかよし 3にんぐみが いました。 そのひは あめだったので、 へやで おえかきをして あそぶことになりました。

すきな えを かいていると、 きつねさんが、 じぶんの あかい くれよんが もうないことに きがつきました。

「かして！」

と、 きつねさんは こぶたさんの くれよんをとり、 かきはじめました。 こぶたさんは、

「あれ？」

と おもいました。

しばらくすると、 たぬきさんが、 じぶんの あおい くれよんが もうないことに きがつきました。

「こぶたさん、 あおいくれよん かりてもいい？」

と きいてきたので、 こぶたさんは、

「いいよ。」

と こたえました。

「ありがとう！」

と たぬきさんは にっこり わらって げんき いっぱいに いました。

そのようすを みて、 きつねさんは あかい くれよんを じっと みつめていました。



きつねさんへ

()

